

小さなまちの大きな挑戦 「北海道ガーデンショー2015 大雪」

北海道におけるガーデンムーブメント

北海道ではガーデンムーブメントが起きている。

これは、2004年にスタートした「ガーデンアイランド北海道」という北海道を庭園のように美しい島にしようとする市民運動が本格的な始まりである。その後、旭川「上野ファーム」から富良野、十勝のガーデン7つを結ぶ「北海道ガーデン街道」が2009年に発足。これまで競争相手であった各観光ガーデンがお互い協力し合い、共同プロモーションを行う事で、北海道におけるガーデンツーリズムの推進におおいに貢献する事となった。

このムーブメントに、より拍車をかける事を目的に「北海道ガーデンショー」が2012年に「十勝 千年の森」で開催され、入場者数20万人、十勝管内への地域経済波及効果32億3千万円と成果をあげた。

こうした動きに呼応して、北海道内各地でガーデン造成による観光振興が取り組まれるようになり、旭川市では「あさひかわ北彩都ガーデン」、上川町では「大雪 森のガーデン」が造成される事になった。

小さなまちの大きな挑戦

上川町の「大雪 森のガーデン」は、上川の食を楽しめる三國シェフのレストランとともに、上野砂由紀氏が植栽設計、高野ランドスケーププランニングが全体設計によってつくられた。この取り組みは上川の農作物のブランド価値を向上し、上川を象徴する「森」を活用した観光振興を目的としたものである。

グランドオープンを迎えた2014年に、上川町は第2回目の北海道ガーデンショーを開催する決断を行った。上川町は、人口4,000人を切る小さな町である。そこで数億円規模のイベントを行う事は大きな決断であったはずである。議会における上川町長の説明はこの大きな決断を象徴している。

「ガーデンショーが確実に成功できるかは正直わからない。ただ、わかっている事は、このまま何もしないと確実に衰退していくという事である。だから、可能性を感じているガーデンショーに取り組んでいく事に意義があるのだ」

これを受けて、2015年5月30日から10月4日まで、「大雪 森のガーデン」を含む上川地方の3会場にて「北海道ガーデンショー2015 大雪」を開催する運びとなった。

大雪山に抱かれた3つの庭を巡るガーデンショー

「北海道ガーデンショー2015 大雪」は北海道を代表する名園「上野ファーム」、メイン会場となる「大雪 森のガーデン」、そして大雪山国立公園、この3会場によって展開される。旭川空港からすぐそばの「里」、親しみやすい「森」、荘厳な「大自然」と美しい庭を巡るガーデンショーである。

メイン会場となる「大雪 森のガーデン」では、既存の「森の花園」「森の迎賓館」に加え、国内外から3名の作家を招待したデザイナーズガーデンと若手デザイナーの登竜門として開催した国際デザインコンペティション（約100作品応募）によって選ばれたコンペティションガーデンが6作品展示されている。今回のガーデンショーを象徴する「ドレスガーデン カンテ」はスキージャンプの町上川らしいガーデンとなっている。



様々なガーデン作品を「観る」だけではなく、自然な庭の中で楽しんで「過ごす」事を目的に、期間中、ガイドツアーをはじめ、コンサートや朝食会などさまざまなイベントやプログラムが、ガーデン×遊び、ガーデン×芸術、ガーデン×音楽など、様々な視点でガーデンショーを彩っている。

ガーデンショーから地域活性化へ

「北海道ガーデンショー2015 大雪」は、これまでの北海道のガーデンの取り組みとともに、「International Garden Tourism Network」から2015年の「Garden Festival of the Year」を受賞している。これは、開催コンセプト、立地、ガーデンの質や様々なプログラムが評価されただけでなく、小さなまちの大きなチャレンジも評価を受けたものである。

このガーデンショーにおいて、町民自らがおもてなしをしようと、小さなまちの大きなチャレンジとして町が一体となって、市街地を花で彩り、ガーデンマルシェの運営、ガイドや植物管理などのボランティアを実施してきている。

長期間の大きなイベントを町民一丸となって取り組む経験が今後のまちづくりに活かされ、なにより多くの観光客に喜んでもらう事を実感する事によって、上川町に生きる誇りがより強くなると信じている。

(高野ランドスケーププランニング株式会社 村田周一)